



○「関所を越える際に近くで温泉に入れる宿のある場所が、芦之湯だったんだよ」と語る川辺芦之湯観光協会長。芦之湯は、賀茂真淵らが歌を詠み碑を残した地であり、財界人らも泊まる地であった。○国民保養温泉地指定について聞くと「芦刈まつりで、三碑や東光庵などのいろんな歴史を掘り起こしてきて20年以上。その積み上げが今回の認定だと思うと、素直にうれしいよね」とのこと。○地域の名起こしを事業課題に、史跡の研究・発表を重ねてきた「芦刈まつり」で、初期の頃に講演をした正眼寺先代住職・故岩崎宗純先生は、芦之湯を『神々が集う信仰の湯治場』と言ったそう。○川辺さんは「今年の芦刈まつりは、(当時ここに集った)本居信長をテーマにやろうと思っている。指定だけで終わらず、観光協会はこれからも前向きに取り組みを続けていくよ」と締めくくった。

——この認定は歴史の掘り起こしを積み上げてきた結果だと思う(芦之湯観光協会長 川辺ハルトさん)



《六道地蔵》

3.5mもある巨大な地蔵菩薩坐像の磨崖仏です。5m後ろに下がったところから、手を双眼鏡の形にしてのぞいてみましょう。なんと、仏像と目が合います。立体的に作られている仏像は、目が合う地点が必ずあるそうです。噂では、心がきれいな人は、何もなくても目が合うとか。



《八百比丘尼の墓》

800年以上生きたという伝説の女性、八百比丘尼。彼女の墓も宝篋印塔ですが、創建当初の形を留めておらず、国重要文化財指定には至りませんでした。四角い柱で2つに仕切られた石や、下にある返花座は関東の特徴です。



《応長地蔵》

1.24mの安山岩に彫られた地蔵菩薩。六道地蔵の完成後に作られていることから、その後も地蔵信仰が続いていたことが読み取れます。四十九日にここで送り火をたく風習があったため「火焚地蔵」とも。



《多田満仲の墓》

お経を納める宝篋印塔です。関西から関東に形を変えながら伝えられました。この墓は関西寄りの様式です。関東の形である八百比丘尼の墓との違いを探してみましょう。



《二十五菩薩》

仏像を岩に直接彫った磨崖仏で、地蔵菩薩24体と阿彌陀如来像、尊名不明の像計26体が、歳月をかけて1体ずつ彫られたようです。一般的に阿彌陀如来は、二十五菩薩を供としますが、その菩薩は地蔵菩薩ではありません。この阿彌陀如来は、なぜ地蔵菩薩と一緒に彫られたのでしょうか。そして、横を向いている1体の菩薩も。これらは作者の遊び心か、それとも……。



《曾我兄弟・虎御前の墓》

鎌倉時代に実在した兄弟と、兄の恋人・虎御前。兄弟の没後100年ほどのちに建てられた五輪塔です。仏教では全宇宙は地・水・火・風空の五大要素から成るとされ、墓地にある塔婆同様、五輪塔はそれを表します。

鎌倉〜室町の石仏・石塔巡りでいざ時の旅へ  
旧芦之湯フラワーセンター近くの入口から、精進ヶ池へ向かう遊歩道と、その終点にある石仏・石塔を自分の足で巡ってみましょう。

# 歴

史的に見ると、温泉地としての芦之湯は、鎌倉時代の

文献に登場します。「あしのうみのゆとて温泉もあり」(あしのうみの湯という名の温泉もある)。歌人・飛鳥井雅有の旅日記『春の深山路』に書かれたこの一節が、現時点で箱根の温泉の存在を確認できる最初の史料です。芦之湯、湯本を結ぶ「湯坂路」を通り、鎌倉に向かった際の様子を記したのですが、箱根越えや二所詣のために利用された湯坂路は、歌人・阿仏尼の『十六夜日記』にも記されています。

また『東関紀行』(作者不詳)にも、芦ノ湖と区別して「又蘆の湖といふもあり」(またあしのうみというものもある)といった文言があることから、あしのうみ(芦之湯)には温泉があると考えられるようになりました。

# 湯

間田清左衛門が、寛文2(16

治場として栄えたのは、江戸時代。伊勢国松坂出身の勝

# 自

然も楽しめる芦之湯温泉は、精進ヶ池を中心に、特に初夏にはニシキウツギやヤマボウシ、サンショウバラといった木々の花を楽しむことができます。自然景観と環境を守っていくため、遊歩道や阿字ヶ池付近などの清掃活動に取り組むなど、これまでも地域ぐるみでまちづくりを進めてきました。国民保養温泉地として、今後は、阿字ヶ池周辺を掘削し湿原を復元させ、東光庵や石仏・石

# 石

仏や石塔は、初夏は新緑に囲まれ、冬は一面氷となる精進ヶ池のほとりに点在しています。鎌倉時代後期に集中して造られ、多くが国重要文化財に指定されています。

荒涼とした風景や険しい地形からこの辺りは地獄と恐れられ、また、道中で命を落とした旅人の霊を慰めるために地蔵信仰が広まっていったようです。

塔群とともに芦之湯の古き良き歴史的景観をよみがえらせていく予定です。また、それらを楽しめる散策ルートを新たに設け、温泉と併せて、散策を健康増進に生かしていくための取り組みを進めます。そして、温泉利用者に安全かつ適切な入浴を指導し、生活指導や応急手当のできる「温泉入浴指導員」も育成していきます。

——周辺の自然と調和させながら、芦之湯ならではの歴史と文化を生かし、誰もが安全に安心して保養・休養のできる魅力ある温泉地としてさらに発展していくことを願っています。